

平成25年度 新潟市外国語活動部 活動報告

部長 滝澤 富明（新潟市立松浜小学校）

1 研究主題

進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成
ーよりよいコミュニケーション活動の在り方ー（五年次）



2 研究の概要

研究主題を具現するために、以下の二点について授業研究を通して研修を進めた。

- ・効果的な学習活動・指導法を検証する
- ・目標と評価の整合を図り、観点の趣旨を踏まえた評価内容・評価規準・評価方法を設定する

3 研究の実際

市内小学校部員117名を地域別に2ブロックに分け、各ブロック1回ずつ、研究授業及び授業協議会を実施した。

- Aブロック 6年「あなたの特別な時刻は何時ですか？」村上大樹教諭（上所小）
授業のねらいは、積極的に自分の特別な時刻を紹介したり、友達の特別な時刻を聞き取ったりしようとするのであった。まず、学習課題を確認し、モデルとなる対話を示した。1回目の紹介で「どうしたらうまく伝わったのか」を共通理解し、グループを変えて2回目の紹介をし、カードで相互評価を行った。成果として、単元の最初に、ゴールであるコミュニケーション活動の姿を示したことがねらいの達成につながることが分かった。また、「聞きたくなる」「話したくなる」魅力的な活動内容が児童の意欲を高め、積極的なコミュニケーション活動に有効であることが分かった。
 - Bブロック 6年「友だちを旅行にさそおう」 矢部直美教諭（丸山小）
授業のねらいは、「おススメの国紹介」を行い、声の出し方や動作、顔の表情などを工夫して発表したり、発表にうなずいたり質問に答えたりして聞いたりすることであった。まず、6つのグループが「おススメの国」を紹介し、児童は反応しながら聞いていた。その中で、思いがよく伝わった理由を発表し合った。成果として、一人一文以上発表したことと質問文を入れたことが、活発なコミュニケーションを引き出すことが分かった。また、評価カードに、評価の観点に即した項目と、肯定的な感想を記入する欄を入れたことで、児童に自己表現の喜びを味わわせることができた。
- ※ 研究授業の他に、昭和女子大学附属昭和小学校校長の小泉清裕様のご講演、部員によるミニ模擬授業(7実践)、研究授業に関する情報交換、研究主題にかかわる一人一実践の交流等の研修を、全体会・ブロック毎の部会で実施した。

4 成果と課題

二つの研究授業から、効果的な学習活動や指導方法、評価方法について学ぶことができた。学習活動については、児童にとって魅力的な活動内容を設定することや、発表方法に条件付けをすることでねらいに迫ることが明らかになった。指導方法については、単元の最初にゴールの姿を示すことや、授業の最初にモデルを示すことが効果的であることが分かった。また、どちらの授業でも、「話す」「聞く」ことにおいて大切なスキルを押さえていた。さらに、それらを児童自身に気付かせることもできた。評価方法については、カードに評価の観点を具体的に示したこと、肯定的な相互評価を入れさせたことが有効であることが分かった。

今後の課題として、「思いを伝える」「思いを受け取る」といったコミュニケーションの本質に迫る活動内容を工夫すること、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿」につながる評価のあり方を検討すること、を追究していきたい。